

枚方市の「七夕伝説」にちなんだ不思議な小屋など、ディズニーを思わせるメルヘン調の遊び&癒し空間

「ハピネスパーク 千年オリーブの森」の第2期では、様々な遊び空間も演出されている。もともと歌手・絢香「This is me」のCDジャケットの「楽樹」を管理棟のシンボルにするなど、遊び&癒し空間の演出にはこだわりのある山本社長だが、第2期でもその試みは健在だ。

第2期の霊園の奥にあたるエリアをかなりのスペースを割いてディズニーを思わせるメルヘン調に演出している。風見鶏の付いたとんがり屋根の水場、オリーブのベンチ、何やら不思議な木の根っこをモチーフにした小屋。実はこの小屋、枚方市の「七夕伝説」にちなんだストーリーがあるという。「この小屋は6月24日のUFO 記念日、7月7日の七夕、それにお正月の年3回しか開きません。普段は2カ所の直径10センチほどの覗き窓で見ていただけます」（山本社長）。ご開帳（公開日）が楽しみです。

取材当日に見学に来られたお客様も、「もう1時間ほどいますが、全然飽きがきません」とこの遊び&癒し空間、なかなかの好評のようだ。



トイレ・休憩室からは霊園の全景が見渡せる



歌手・絢香「This is me」のCDジャケットの「楽樹」イラストを、許可を得てモチーフにし管理棟のシンボルに。写真右はガラス張りの根元部分

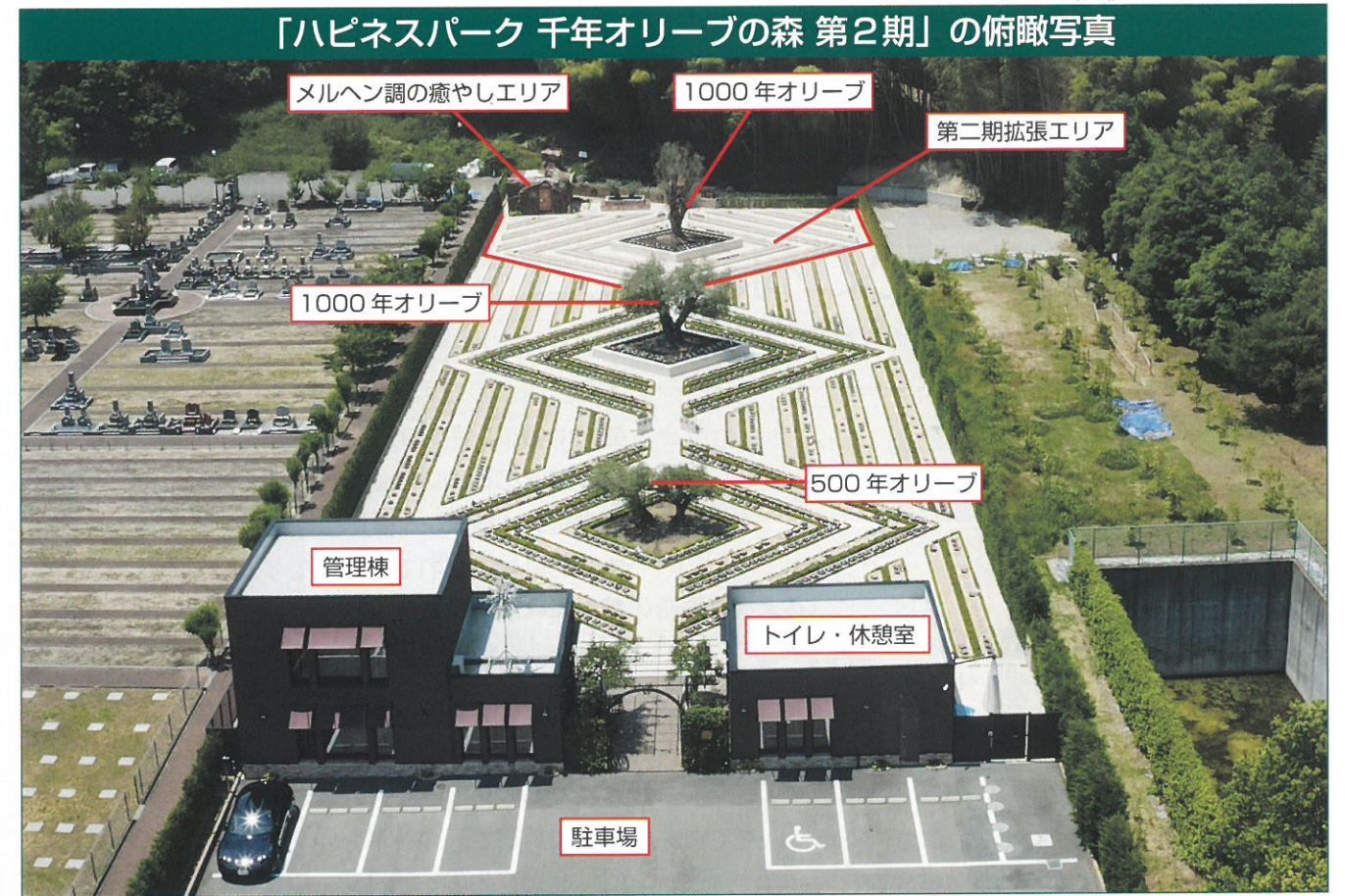
第2期の注目エリアのメルヘン調の遊び&癒し空間

枚方市の「七夕伝説」にちなんだ夢ストーリーも

風見鶏の付いたとんがり屋根の水場、オリーブのベンチ、木の根っこをモチーフにした小屋。実は枚方市の「七夕伝説」にちなんだストーリーが詰まった不思議な小屋だ。「6月24日のUFO 記念日、7月7日の七夕、お正月の年3回しか扉が開かない。



「ハピネスパーク 千年オリーブの森 第2期」の俯瞰写真



北川雅夫のココがポイント

開園5年目を迎える今年6月、満を持してオープンした第2期。全国に「オリーブ〜」と名の付く霊園は幾つかあるが、その発想とスケール感は比較にならない。樹齢1000年のオリーブの巨木は近くで見ると壮観だ。平和と繁栄の象徴でもあるオリーブの樹を、存在感のあるシンボルツリーにしたのは画期的な発想といえよう。まさに「自然と共に永遠に眠る」のコンセプトに、忠実に設計されているといえよう。車椅子対応の通路の敷設は全て大理石のトラバーチンで統一。オリーブの巨木とのコントラストが絶妙だ。

第2期の最大の目玉は、ディズニーを思わせるメルヘン調のエリア。もともと歌手・絢香「This is me」のCDジャケットの「楽樹」を管理棟のシンボルにするなど、こだわりのある山本一郎社長。敢えて大きなスペースを割いて、思い切った遊び&癒し空間を演出している。風見鶏の付いたとんがり屋根の水場、オリーブのベンチ、何やら不思議な木の根っこをモチーフにした小屋。つつい釘づけになりそうな遊び&癒し感覚が満載だ。枚方市の「七夕伝説」にちなんだ夢のあるストーリーのある木の根っこの小屋。霊園の常識を超えたといえよう。



正門のバラとジャスミンのアーチを通り抜けると壮大なオリーブの森が広がる



「ハピネスパーク 千年オリーブの森」の料金表

普通地区（区画）	660,000円（税込）
500年オリーブ地区	880,000円（税込）*完売
1000年オリーブ地区	1,100,000円（税込）*完売
1000年オリーブ2地区	1,320,000円（税込）

*永代使用料・永代供養料 3,5000円 初めの1回のみ必要